

第1回 泉佐野市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和5年2月16日(木) 午後2時00分

2. 場 所 泉佐野市役所4階 庁議室

3. 出席者

構 成 員	市 長	千代松 大耕
	教育長	奥 真弥
	委 員	赤坂 敏明
	委 員	山下 潤一郎
	委 員	甚野 益子
	委 員	石崎 貴朗
	委 員	谷口 朋

事務局及び関係職員

市長公室長	北川 和義
政策推進課長	福井 丈司
教育部長	高橋 和也
こども部長	古谷 信夫
施設担当理事	岩間 俊哉
スポーツ推進担当理事	檜葉 浩司
日本遺産推進担当理事	中岡 勝
教育総務課長	田倉 元
教育総務課学校施設担当参事	山出谷 佳則
教育総務課教職員担当参事	山岡 史賢
教育総務課夜間中学担当参事	本道 篤志
教育総務課給食センター建設担当参事	杉浦 勇人
学校教育課長	藤原 義弘
学校教育課学校指導担当参事	和田 哲弥
学校教育課指導主事(兼)指導係長	古谷 大助
生涯学習課長	大引 要一
青少年課長	中岡 俊夫

スポーツ推進課長
子育て支援課長
(庶務係) 教育総務課主幹(兼) 係長

山路 功三
前田 憲吾
山本 建志

4. 議 題

(1) 部活動の地域移行について

(2) その他

- ・ こども朝食堂について
- ・ 夜間中学開設の進捗について

5. 議事の経過

(午後2時00分開会)

田倉教育総務課長

定刻になりましたので、只今から令和4年度第1回泉佐野市総合教育会議を始めさせていただきます。
会議に先立ちまして、開会にあたり、千代松市長からご挨拶をお願いします。

千代松市長

令和4年度第1回泉佐野市総合教育会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、教育委員の皆様方におかれましては、ご多忙の中、本会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、平素より、泉佐野市教育行政の充実及び発展のためにご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、本会議は、教育委員会と自治体の長が教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としたものでございます。

今回の総合教育会議のテーマは、「部活動の地域移行について」でございます。

学校でのクラブ活動は、生徒が生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しみ、継続するきっかけともなり、授業以外での貴重な経験や、学びの場であると考えております。しかし昨今は少子化が進み、必要部員数が集まらないことや、指導者となられる教員の長時間労働、人員や指導力の問題等、種々の課題が生じており、生徒にとりましても希望するクラブ活動への参加や、安定的で継続した活動の機会が失われる懸念がございます。これからのクラブ活動の運営方法につきましては、令和5年度から始まります地域移行といったこれまでの学校だけのクラブ運営ではなく、クラブ活動を地域に移行する方法や、新たな指導者の育成について等、国の動向を参考にしながら考えていく必要がございます。生徒の望ましい成長にむけて、泉佐野市の実情に応じた方法で、学校と地域が一体となり、持続可能な活動を行える環境を整えて参りたいと存じます。

つきましては、本日教育委員の皆様には、忌憚のないご意見を賜りたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教育委員会が考えた挨拶文はここまでではありますけれども、本当に冒頭ではございますけれども、トルコシリア地震で四万千人を超える方々が犠牲になられているというところで、心からのご冥福を犠牲になられた方々に捧げたいと存じますし、あわせて被災された全ての方々に心からのお見舞いを申し上げる次第でございます。

泉佐野市といたしましては、関西国際空港に一番近い町でございますので、トルコのイスタンブールと直行便も以前には就航していたというところもあり、非常に各国の行き来があったというところで、泉佐野市のふるさと納税を活用して、トルコシリア地震の方々への支援を今進めているというようなところでございます。また、できる限りのことはさせていただきたいなと思っております。

泉佐野市は、関西国際空港に一番近い町でございますので、非常に海外からの友好都市の引き合い等もございましたので、教育委員の皆様方にもこれまで様々な海外の友好都市に出向いていただきました。ここ数年は、コロナ禍の中で行き来が途絶えているような状況ではありますけれども、それ以前は友好都市の交流ということで、教育委員の皆様方にも訪問していただいて、交流を深めていただくような事業を行っていただいているところでございます。

さて、前回2021年7月21日の総合教育会議ですが、東京オリンピックの開幕前でございます、本市は海外の友好都市からウガンダ共和国のホストタウンということで、選手団をお迎えしていた時期で、その時には成田空港に到着した選手団の一人がコロナ患者の陽性に確認されたり、後半になってようやく練習が開始できたと思ったら、オリンピックに出場できなくなったウガンダの選手の行方がわからなくなるという状況に陥っておりました。7月20日にウガンダの選手団を東京オリンピックの方に送り出して、その日の夜、選手は見つかっておりまして、その選手が国に帰りたくないという状況が生じまして、亡命をするのかどうかという非常に慌ただしい時期でございましたので、私もその時は申し上げることはできなかったのですが、総合教育会議を出たり入ったり、皆様方には大変失礼なことをしてしまったのですが、あの日は警察であったり、政府の方とかの電話でのやりとりもございましたので、会議にも中々集中できずに大変教育委員の皆様には失礼をいたしました、それをまず次の総合教育会議の時にはお詫びをしなければならないといけないと思っておりました。

本日は色々とまた皆様方のご意見を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

田倉教育総務課長

ありがとうございました。

協議に入る前に、本日は中村委員が体調不良により欠席となっております。

それでは協議事項に入らせていただきます。

次第に従いまして、2協議事項（1）「部活動の地域移行について」について、古谷学校教育課指導主事より説明をお願いします。

古谷学校教育課指導主事

本日は泉佐野市として今後どれくらいの時間をかけて地域移行を進めていくのかという点について協議いただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

国・府・市の状況を私の方から説明させていただきます。

まず、学校における部活動について簡単に説明します。

これまで部活動は人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場であり、異年齢との交流で得られる教育的意義の高さや、授業等で学習したことを踏まえ、自らの適性や興味・関心等をより深く追求していく機会として、学校現場においてとても大切な活動として位置づけられ、どの学校でも部活動は行われてきました。

しかし、そもそも部活動は、教育活動の一環ではあるものの、課外活動であるため、法令上学校が設置・運営する義務はないとされており、どのような部活動をするのかといったところは学校に任されています。ですので、A中学校にはテニス部はあるが、B中学校には無いという風に、全ての学校に同じ部活動があるという訳ではありませんが、これは問題が無いということになります。

そのような中、現在の部活動には大きな課題が2つあります。それは、子ども達の側面と、教員の側面です。まず、最も大きい課題が少子化の影響により部活動を維持することが困難になってきているということです。これまであまり触れられてこなかった部分ですが、本市でも確実に影響が出てきています。特に運動部は深刻な状況です。また、教員側の課題も最近では大きく取り上げられるようになりました。部活動は、放課後や休日に行う活動であるため、当然長時間勤務の要因の一つになっています。スポーツ庁の調査でも、休日の部活動指導の平均時間が10年間で1時間増加したという結果もあります。さらに、教員が特に専門性を持っていなくても顧問にならないといけない状況もあり、実際に子ども達に指導する際には苦しい場面も多々あります。

こういった理由から、教員の人材不足につながっているという現実もあり、泉佐野市の今後の教育を考えていく上でも避けることのできない内容であると考えます。

ここからは、本市の現状についてお話しします。

ここ5年間の中学校の在籍者数と部活動に入部している生徒数の推移を運動部・文化部それぞれで男女別でグラフにしています。運動部の男子は特に厳しい状況で、少子化の影響を最も受けていると言えます。

運動部の女子も影響はありますが、比較的なだらかに低下しているという状況です。全体で見ると分かりにくい部分もありますので、次に個々の部活動の状況を見てみます。

特に深刻な状況にある運動部活動を拾っています。このように、団体スポーツではすでにチームとしての活動ができないような状況が生まれています。こちらの数字は、入部届を出している人数ですので、実際に活動している人数はもう少し減ると考えられます。

続いて文化部です。こちらは、運動部とは違い、大きな影響は受けていない状況です。つまり、市の課題としてはまずは運動部にありと捉えることができます。

女子も男子と同じような傾向で、文化部は子ども達からのニーズも依然としてあり、どのように活動を維持していくのが課題となりそうです。

文化部も全体では見えにくい個々の状況を見ていきます。

こちらは、文化部で最も入部生徒数が多い吹奏楽部の4年間の推移をまとめた表となりますご覧

の通り、人数の減少傾向は確実にあり、第三中学校では合奏することがすでに困難な状況にあるのではないかと考えられます。

ここまで見ていただいたように、今の部活動をこのまま続けていても、少子化や教員の働き方が変わっていかない限り、子ども達は望ましい部活動指導を受けることができず、学校では持続可能な部活動の運営ができなくなることは明らかなです。

本市としても、将来にわたり、子ども達が継続してスポーツに親しむことができる機会や多様な体験機会を確保する必要性があると考えます。

このような状況は、全国各地で起こっており、国もその対応をこれまで検討してきました。

平成30年には、「部活動は地域、学校、競技種目【分野、活動目的】等に応じた形」で、また、平成31年には、「将来的には、部活動を学校単位から地域単位の取組」といったように、学校以外でもその役割を担うことが言われてきました。

さらに、令和元年には、「学校以外の主体が担うことについて検討を行い、早期に実現する」とことや、令和2年には、「令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動の指導を望まない教師が休日の部活動に従事しないようにする。」といったことが言われるようになり、学校ではなく、地域が主体となった部活動へと移行していく方向性が示されました。

このような状況で、国は結論として持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要とし、令和5年から7年までの3年間で休日の部活動を学校から地域へ完全に移行する方針が示されることとなりました。

その方針を受け、府も3年間をかけて府内中学校の部活動を段階的に地域移行する計画を立てていました。配布資料の16ページの資料となります。

しかし、国・府の方針に対しては、地域の実情に合っていないという声がたくさん上がりました。一番の課題は、市町村の規模によっては受け皿となる団体や指導者が見つからないということでした。本市の課題も同じところにあります。また、学校外での活動となるため、家庭の費用負担が少なからず発生することになります。活動場所についても学校なのか外部施設なのかなど検討が必要です。さらに生徒や保護者、学校のニーズがあるのかといったことも挙げられました。

さらに12月に出された国の予算においても、当初予定していた予算の1/3程度しか準備できなくなったため、先ほどの地域からの意見も踏まえ、当初3年間で完全に行うと言っていた地域移行は、一旦ストップすることになりました。配布資料の17ページに詳細があります。

このように、3年間でできる範囲で進めていこうという方針へと国はトーンダウンしました。しかし、本市の状況が変わったわけではありませんので、地域移行に向けた準備を進めていく必要はあると考えています。

また、配付資料の18ページにあるように地域移行のイメージも示されました。本市では、学校間の合同部活動は距離の問題からなじまないと考えておりますので、まずは、現状も活用している部活動指導員事業を拡大しつつ、外部への移行を少しずつ進めていくべきかと考えます。

配付資料の19ページにあるように、スポーツ庁・文化庁としても、この3年間は実証事業としてのモデルケースとなる取組みを進めながら、地域移行に向けての後押しをしたいという状況です。

具体的な内容がこちらになります。なお、実証事業は次年度より始まるものではなく、すでに行われていた事業です。大阪府内でも昨年度より実証事業に取り組んでいるところもあります。

配付資料の20ページと21ページになります。こちらは守口市の事例です。2年前に、もともと地域にあった小学生対象のサッカーチームに中学生の指導を委託したものです。この学校のサッカー部に所属している生徒の多くが、このサッカーチームに所属していたということでスムーズに移行できたと聞いています。今年度は、スポーツ協会やスポーツクラブにも委託し、指導してもらう部活動が増えています。

箕面市は今年度より事業をスタートさせています。こちらは体育連盟に委託する形での移行を進めています。

また、配布資料の22ページにあるように、泉大津市では実証事業としてではなく、独自に大阪体育大学と連携し、合同ゆる部活動として学校外での活動に取り組んでいます。こちらは、地域移行に向けまずは部活動を学校外で、大学生を中心に、学校の先生以外の人材が指導するという取り組みになっています。

さらに、指導者の養成という部分では、次年度より大阪体育大学で運動部活動指導認定プログラムという指導者養成のための研修が始まり、認定された人材が地域で活動できるようにしていこうという動きをとっています。こちらについては、本市も認定者に部活動に関わってもらいたいということで、大学側とも協議を進めているところです。

以上が、部活動の地域移行についての現状となります。本日は皆様に本市の部活動の地域移行についてご協議いただき、今後の市としての方向性について固めて行ければと思います。特に一つめの移行の目途について、時間をとって協議いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

田倉教育総務課長

ありがとうございました。

ただ今の説明について何かご意見ご質問がありましたらお願いいたします。

山下委員

国が最初3年でやってくれと言っていたと思うのですが、泉佐野市としても一つに集約するのか、隣同士の学校で合同とする合併型か、学校に派遣型か、この三つしかないと思うのですが、私の考えでは中学校のクラブ活動というのは、野球が上手になりたいとか、サッカーが上手になりたいとかはあると思うのですが、先生との付き合いとか、先輩や後輩の付き合い方とかそういったものが運動が上手くなるよりも大切なことだと思っていますので、今の現状を打開しろというなら、3年、5年、7年かかるかもしれませんが、最初のうちは週に一回の指導者に来ていただくなりを進めていって、様子を見ないと仕方がないと思うのですが。

先輩後輩というのは大人になってからも大切なことになってくると思いますので、その辺を軸に考えた方がいいかと個人的には思います。

田倉教育総務課長

他にございませんでしょうか。

山下委員

どの案でも問題点は絶対ありますので、ベターな方向かなと思います。

田倉教育総務課長

他にございませんでしょうか。

甚野委員

今私が思いますのは、運動関係に関わる仕事をさせていただいているのですが、運動する目的は二つの方向に分かれると思うんです。体を動かして楽しみたいという方向と、競技として成績を上げたいという方向と、二方向出てくると思うんです。最初はその種目を体験したいという感じで入ってきてくれるんですけども、途中から興味が二分化されているように思っただけで私も指導に携わらせてもらったのですが、そうなった場合にその方向性を考える必要があるのではないかと思います。

最初の入口としては、サッカーがおもしろそう、楽しそう、テレビでもワールドカップでもやっているしという感じで参加されて、そこからさらに優秀なチームに入ったりとか、そういうのを目指す子どもでできますし、先程山下委員が言われたように、仲間と先輩とチームとして楽しみたいという方向をある程度明確にしておかれたら、クラブの設定がしやすいのではないかなと思います。

例えば先の話ですけれども、1つの運動を設定した場合に、クラス団体を分けたクラスを設定しておいて、自分がどのクラスに入って目標をその方向に定めるといような方向もあるかなどこの話を聞いて思いました。

田倉教育総務課長

ありがとうございます。

他にございませんでしょうか。

赤坂委員

甚野委員がおっしゃられた通りで、子ども生徒の多様なニーズ化によって同じ種目でも、やはり子ども生徒の部活に対する考え方といいますか、しっかりこの競技を体得して、色々な大会に出ていい成績等を目標にしている子どもと、単純にこの競技をみんなと一緒に楽しみたい等、多様なニーズに対応していくとなればまた時間も凄くかかるし、一番初めにどれぐらいの期間で地域移行すべきかは、その要素を含めて、だいたいのメニューが出来上がった時点で地域移行の時間をどれだけかかるか考えておかないといけないと思います。

現状の部活でされている軟式野球やサッカー等は、クラブとして他のところに移管していくのは比較的短い時間でできるのではないかと思います。

市として、ニーズを深くつかんだやり方でいくのか、それとも取りあえずは現状でいくかによって、移行していく時間が全然違うと思うんです。その方向性を示していただかないと、どれだけの時間をかけたら地域移行する時間はどれぐらいですか、協議してくださいと言ってもなかなか私たちも答えにくいなと思います。

一番入口の2ページの「学校における部活動について」ですが、学校教育にとっては大切なことで

すよと謳っていますけれども、現在は「法令上、学校が設置、運営する義務はない」と放り出したような言い方ですけれども、昔からこの建前はあったわけですね。

奥教育長

課外のクラブですけれども、教育的意義が高いとは言われていますし、今説明があったように、学校によって人材等のこともありますし、必ずこんなクラブはOKとか、そういう事ではなくて、そこは違いがあって当然然るべきで。クラブの内容まで決めることはないという意味で説明させていただいたと思います。最近になってほったらかしになっているという意味ではないです。

赤坂委員

法令上は昔からこうですよという意味ですね。

奥教育長

学習指導要領にも入っていますから。

赤坂委員

多くの保護者、子ども生徒を含めてですね、学校が行っているということは、課外活動については学校と同じというか、建前を完全に理解されている保護者はいないと思います。ですから、切り離すと言った時に、学校の色々な責任はどうなるのかとか、部外活動は成績に加点があったか、そのような印象とか、色々細かい点で密着して一体化で思っていたのが「今から義務はないんです。」と突き放した言い方で保護者が理解できるかどうか。これが一つ大きな問題になってくる場面もあるのではないかなと危惧するところです。

それと、例えばeスポーツとか新しい競技がでてきています。この関心も既存クラブ以外にも興味を示されている子どもも結構あると思います。

泉佐野市の施設の中には、各学校にプールもできて、水泳のクラブに入りたいなという子どももいるでしょうし、アイスアリーナもカーリング施設もあるので、そういう風なスポーツも含めた上で、地域移行を進めていくとなれば、ボリュームは大きくなります。

文化部も同じですけれども、新しい文化クラブ的なものもありますし、ITとかコンピューターの文化スポーツ競技も増えてきていますので、それも含めた上で地域に移行していくのか、取りあえずは現状のクラブ活動を地域に移行していくかによって、ボリュームと時間が全然違ってくると思いますので、方針を出してもらわないと私達もいつまでという協議ができないと思います。

奥教育長

期間についてももう少し意図を説明してくれますか。

古谷学校教育課指導主事

国としましては、基本的には次年度からの3年間で地域移行を進めていくという方針自体は変わりません。本市としましては、どれぐらいの時期をゴールにして地域移行を進めていくのかということ

ころを設定した上で、そこに向かって先程お話しがあった通り保護者の方の不安があるのではないとか、学校自身にも不安が今の状況ではあるのかなと思いますので、その辺りも丁寧に説明していく時間が必要になってきます。

来年からいきなり地域移行しますよというような話ではないと思っていますので、一定のゴール感があった上で、そこに向かって1年目はこういった形で進めていきましょう、2年目はこういった形でというので進めていきたいというような考え方ができないかなと思っています。

奥教育長

その為にはどんなことを調べないといけないとか、こんなことを把握しないといけないとかを含めてということですね。

古谷学校教育課指導主事

そうですね。はい。

現状ではなかなか全てを把握できている訳でもありませんし、逆に色々な情報をオープンにすることで混乱が生まれることも想定されますので、一定の方向性がまとまった段階で周知していくのが良いのかなと考えております。まずは期間がどれぐらいあればというところを考えていただけたらなど、今回は説明させていただきました。

甚野委員

赤坂委員の意見の中で、市内の専門的な施設というのがいくつかあると思います。

例えばアイスアリーナとか、J:COM末広体育館とか、各グラウンドも地域でありますし、温水プールもあります。

現状でいきますと、学校でクラブをこれから続けていくことが色んな少子化や先生のご負担になるとか、専門的な分野ではないとか、そういう意味で学校でもクラブを続けていくのが困難という方向の話になっていると私は理解しているので、専門的な場所でできる種類の運動から手始めからやってみて、全部の学校であるクラブを一斉にやることはないのではないかなと思います。いくつかの種目をそういうところでやり始めて、手探りではありますが少しずつ進めていくと、先程おっしゃられたように、保護者との関係とかクラブに対する考え方が色々摩擦はありますけれども、徐々にこういう方針で行くというがわかってきた時には、この会場に行けばこの種目ができるんだなという風に明確になっていくのではないかなと思います。

全てのクラブを一斉にやるのは、少し市民の理解を深めるには無理があるような気がします。

その地域、その建物の施設でできるいくつかのスポーツに限って取り組み始めてはどうかと思います。

奥教育長

モデル的に何か場所とか種目を決めてやっていくということですね。

甚野委員

例えばアイスアリーナであれば、どこの学校にもないクラブなので、新規で開きやすいスポーツの種目になると思うんですね。

J:COM末広体育館も大きな部屋、小さな部屋がありますので、その部屋に応じた種目で展開できますし、お昼や夕方の時間とか空いている時間帯もあるのではないかと思います。

奥教育長

泉大津市の取り組みを一つ紹介してもらいましたが、ああいう風な緩い活動は、市全体で設定して、募集して来てくれたんですかね。その辺をもう一度教えていただけますか。

古谷学校教育課指導主事

泉大津市の場合は、市の方で学校の外で部活動ができるようにということで、そういう場所と機会を提供した形になります。体大生の学生や先生が関わって子ども達に指導したりということで、特定の種目にはなりますけれども、希望者が参加できると思いますか、広く周知をして来たかったら来てもいいですよという機会を外部で作ったという事例となります。

山下委員

それは平日ですか。土曜日だけですね。

古谷学校教育課指導主事

休日ですね。

山下委員

甚野委員が言われるように、例えばアイススケート部ができたとして、平日でしたら学校が6時間目が終わってから実際にそこに行ったら、帰ってくるのが遅くなると思いますので、やるのであれば休日しかできないですね。

奥教育長

取りあえずは休日を移行していこうということから始めようということなんで、今おっしゃっていただいていることは、可能は可能かなと聞いていたのですが、平日は授業が終わってからアイスアリーナに行ってしまうのは、交通の面でも大変だと思います。

山下委員

交通費もかかりますよね。

赤坂委員

これは毎日部活から休日に部活をするという方向で、土・日・祝日の方が先に移行しやすいのではないですか。

山下委員

そういう風にしていけば管理しやすいと思いますが、私達の青春時代にあった朝練等はないわけですね。全てがうまくいくことはないかとは思いますが。

赤坂委員

土・日でしたら各施設といいますか、学校のグラウンドや体育館でそれぞれのクラブの活動をして、その時に行政としての支援として巡回バスを運行させるなどしたら、保護者の送迎の手助けになって、理解度も深まっていくと思います。

甚野委員

スポーツの種類によっては土・日の試合とか、練習に保護者が付き添わないといけないというスポーツも結構ありまして、チームとか人数とかレギュラーに入ろうと思ったら、家庭の協力なしに子どもの成績に繋がっていかないという風なご負担も聞いています。

赤坂委員のご意見にもありましたように、保護者の方も働いている方が多い時代になってきていると思いますので、子どもがこの種目をしたくても保護者が働いて送ってもらえないから違う種目を選ばざるを得ないようなことがないよう、行政の方で協力していただけたら、本人も自分のしたい競技に取り組めて、子どもにとっても喜びになると思いました。

赤坂委員

従来よりも活動に対する費用は、絶対に大きくなっていくのは間違いないですからね。

保護者の負担が増えるばかりだと、なかなかクラブ活動ができない家庭が増えて、逆に運動や文化に親しむ機会を失う結果にもなりかねないので、その辺のアシストが絶対必要かなと思います。

それと、指導者を体育協会に依頼すれば比較的に管理しやすいですが、多様なニーズに答えられないと思います。体育協会以外の各方面で体育大学にもお世話になるということですから、そういう面でどういう人材を確保できるのか、その時間を我々は手探りというか、色々な情報を教えてほしいところです。

奥教育長

何か人材について想定される人材がありましたらお願いします。

古谷学校教育課指導主事

考えられることとしては、一番現実的なのは、今部活動指導員事業をしておりますので、そこできちんと学校に外部人材を配置して、学校の先生以外の方が教えていくということに慣れていくというか、保護者も学校もそういう環境になれていくということが必要かなと思います。いきなり知らない人に子どもを預けるというのは、保護者も学校も凄く不安感が高まると思いますので、そういった形で徐々に広げていくというのは一つできることかなと思っています。

後は、それ以外の実証事業を進めているような市の紹介もさせていただきましたけれども、先程お話しもあったように、体育協会であるとかといった部分で、連携はできないのかということを探

っていったりとか、今活動されている時間帯に子ども達が入っていくことはできないのかであったりとか、新しく作ることも必要かなとは思いますが、既存のところに子ども達に関われるようなチャンスがあるかどうかということも考えられることはできるのかなという風には思っています。その辺りは団体の状況もあると思いますので、詳細については私の方では把握できていないのですが、色々な形で人材としてはいらっしゃると思いますので、働きかけはできるのかなと思います。

千代松市長

体育協会と軽く言いますけれども、体育協会の役員の方も高齢化していますし、役員のやり手がないのもあります。部活動指導員事業で出て来ていただけるとなると、リタイヤされた方とかになるとと思いますので、体育協会の実状について、スポーツ推進課はどう考えていますか。

檜葉スポーツ推進担当理事

市長がおっしゃられた通り、部活動指導員に協力をお願いしているのですが、一日働いてる方もおられますし、高齢の方もいらっしゃるって、そういう方についてはお願いできないということもありますし、競技によってはご協力いただいているんですけども、一部の競技、卓球や野球や個人的にさせていただける方もいらっしゃるんですけども、実際お願いしても協力していただけない競技というのもございます。部活動指導員で中学校の現場のお声にお答えできていない部分があるのは事実です。

千代松市長

それぞれの連盟の役員さん自体もやり手がいらないのではないですか。

檜葉スポーツ推進担当理事

その辺はおっしゃられる通りで、一部では役員、代表が不在の期間があったのは事実でございます。

千代松市長

そうなってくると、体育大学の学生とか、スポーツクラブを運営しているところになってきますので、そういう中ででもなるべく費用負担は保護者に求めない方向の中でやっていくべきだと思います。

赤坂委員

体育協会の会員は一覧表がありますけれども、学校のクラブと現在重なっているというのはいくつかありますか。

体育協会の会員は全部で何団体ですか。

今の時点では、中学校のクラブをお願いする種目は少ないように思うんです。

学習センター登録クラブの方が子どもにとって入りたいな、魅力があるなど思うのはこちらの方

が多いと思います。他の公民館登録クラブ等、体育協会よりは魅力のあるクラブが多いなと思います。体育協会だけに依存するのは危険だと思うのですがどうでしょうか。

檜葉スポーツ推進担当理事

加盟団体につきましては19団体ということです。

どこまで遡るかという話になるのですが、22団体あったのが最近のピークで、現状維持で進んでいるということです。

活動につきましては連盟によって方針といいますか、活動の仕方がありますので、リタイアされた方中心に楽しむためにやっておられるとか、武道系なんかは広めたいというようなことで、子ども対象の教室を盛んにされているところもありますし、自分達が競技する楽しみというクラブもあれば、競技を広める、または、子ども達にそういう機会を提供するという考えが強いところもあるということで、一概にひとくくりという訳にはいかないというところもございます。子ども達に教えている対象が小学生対象のところが非常に多くて、中学生になると卒団されるという活動が多くみられます。

甚野委員

今のお話をお聞きしまして、体育協会と学習センター、各公民館で実施されているクラブがあるのですが、そういうのが受け入れてくれるかどうかというのを、体育協会の枠を外して、泉佐野市で活動している種目で打診されるのも一つの案かなと思います。自分のところは「高齢者しか受け入れない」というところもありましたら、「年齢が幅広く低年齢層から大丈夫です」というところもあるかもわからないので、全部がはっきりとわかっていないので、一度確認作業をしていただいたらより明確になるんじゃないかなと思います。

例えば公民館でキッズのピップホップとかヨガも結構多いですね。種目とかも今の世間のニーズに合いますし、それをしたい生徒さんもいてるんじゃないかと思うのですが、体育協会にはヨガはなかったりとかもありますので、体育協会にない種目もあると思いますので、全部に一度確認をしていただくこともいいのではないのかと思いました。

千代松市長

民間の保育園とか、こども園なら体育の授業だけ外部に委託していますよね。

どれぐらい費用がかかっていますか。

古谷こども部長

費用は把握していません。

千代松市長

民間は外部に委託していますよね。

古谷こども部長

そうですね。外部からきています。

千代松市長

費用がかかっても、しっかりした外部の指導者のところに来ていただく方がいいのではないですか。

谷口委員

末広保育園は体育指導に来てもらっているのですが、保護者負担は1200円だったと思います。

千代松市長

保護者負担は考えずに、セレスポやミズノとか。

保護者負担1200円というのは園が一部負担してくれているのですよね。

谷口委員

園が負担してくださって1200円だったと思います。

千代松市長

それで毎日ですか。週に一回ぐらいですか。

谷口委員

週に一回です。

千代松市長

こども部長、一度調べておいてください。

古谷こども部長

わかりました。

千代松市長

包括的に受けてくれるのではないですか、今委託しているセントラルスポーツとか。

檜葉スポーツ推進担当理事

今の館長さんと会社の中で動きがあるのか、どんな感じですかと聞いたことはあるのですが、セントラルスポーツは現場までそういう具体的なことは下りていないということでした、上の方で話はあるかもわかりません。

現状でも水泳の授業とか一部の学校に出向いて指導しているような活動はしているので、「現状でも外にでて指導することはやっています」ということは言っていました。

千代松市長

そういうところをお願いした方が、学校の先生もスムーズにいくのではないですか。
どうですか。

山下委員

各学校×クラブ数となったら結構の人数がいりますよね。同じ問題が熊取町でも泉南地区でもどこでも出てくるので、取り合いになってくるのではないですか。

これから少子化になってきて、泉佐野市は何とか人口を維持しているにしろ、国全体が少子化になっていると0歳児が80万人を下回っている中で、これからますます子どもがいないとクラブの数も減ってくるのは間違いないと思うんです。それプラス先生がクラブがしたいという先生が少なくなってきたということなんで、これから将来を考えた場合、先程市長が言われたようにそこに派遣していく方が、一つのセントラルを作ったらかなり危険があるのではないかと思います。基地を作って皆さんを集めたら危険があるのではないかと私は思うのですが。取りあえず一番初めに発言させていただいたみたいに、誰か来ていただいて少しずつやっていったらいいのではないかなど、国の方針も3年、7年、10年かわかりませんが、今から10年後という状況も変わっていると思うんです。それを考えていけば、そこに行くのもありですけども、全体的にどこかに預けるというのは私はどうかと思います。

千代松市長

私はそんなことは言ってないですよ。各学校にその人数を派遣してもらったらどうですかという話をしたんですけど。

山下委員

そういうことを言ってるんですけど。

千代松市長

外部指導員みたいな形で。

山下委員

一気には無理かもしれないですけども、剣道部でもいいですが、各学校に講師を派遣するということですよ。

千代松市長

その人材をどうするかで体育協会に任せるか、公民館のスポーツクラブに任せるかというよりも、民間のスポーツクラブをお願いして、必要な人数だけ週に何回かだけ来ていただいて回していく方が、保護者や学校の先生とのトラブルも少ないとは思いますがね。

奥教育長

山下委員も石崎委員も中学生はいてないですか。お立場からしたら一箇所のところに行くよりは学校の方がいいですか。

千代松市長

私は一箇所でとは一言も言ってないですよ。

石崎委員

私は中学生はいないです。

奥教育長

市長が言われているのは、それぞれの学校に派遣してもらってと言っているんですね。

山下委員は3年生でお子さんがいらっしゃって、谷口委員は子どもさん小さいので、その辺で保護者の立場からしたら、場所は学校の方がいいのか、どこかに行った方がいいのかと言ったらどんな感じですか。

山下委員

学校の方がいいです。

石崎委員

私も学校の方がいいです。

山下委員

アイスアリーナとか体育館に行くとかになってたので、それはしんどいのではないかなと思っただけで、各学校に行ってもら方がいいと思います。

赤坂委員

今市長がおっしゃたように、そういう人材を派遣してくれるような業界はあるのですか。

千代松市長

民間の子ども園や保育園は体育の先生は全部派遣ですね。

古谷子ども部長

体育の先生は派遣です。

赤坂委員

そういったところがあれば学校に来て出前みたいな形で、一番簡単ですね。

千代松市長

兼業がいけますから、午前中は保育園に行って、昼からは体育の先生をしてもいいわけですから。

高橋教育部長

兼業といいますか、その会社に派遣依頼してその派遣先が保育園なのか学校なのかということはありません。

赤坂委員

学校の先生もその方がいいのではないですか。

山下委員

朝から晩まで縛りがあるわけではないですから。2時間とかで中学校と幼稚園とかなり掛け持ちできますね。

千代松市長

体育の先生ならできますね。

子ども部長忙しくなりますね。

奥教育長

そういう業者さんは遠いところなんですか。大阪市内ですか。

古谷子ども部長

どんな感じで派遣とか、雇用契約を結んでとか、色んな形態があるので、そこは確認しないといけないとわかりません。

山下委員

まあまあお金がかかりますね。

赤坂委員

お金はかかりますけれど、従来のところでは運動や文化活動はできるので、移動はなくなるので、その分の負担はないですからね。

山下委員

それなら平日でもいけますね。逆に平日の方がやりやすいのでは。

赤坂委員

平日もするというのはしっかりやる子ども達だし、土・日も楽しみたいなのというのも一緒に指導してくれるのだったらそれでOKですね。

毎日こないといけないクラブではなくなるということですが、体育協会とか既存のクラブを使った場合、土・日だけで中学生だけの時間帯を抑えてくれるということですか、それとも体育協会の卓球連盟にお願いしたら卓球部は60歳のお父さんから3歳の天才になる幼児までまとめて同じ時間帯に指導するのか、中学生だけ学校のクラブ枠みたいに指導していただけるのか、その辺でイメージも違ってきますからね。

山下委員

イメージ的には、市長の言われているように来てもらった方が楽ではないですか。

赤坂委員

市はどうするのか。中学生だけこの時間に教えてくださいというのか、混合になってもいいのか。

山下委員

混合にできないですね。

赤坂委員

その辺は方針で指導者が、「中学生だけの時間帯でやりましょうか、この条件で」とか色々それは条件の中で考えていかないといけない。

山下委員

例えば3時から5時までの時間をみてくださいと言ったら、その人は朝から時間が空くので、会社としては昼までなんとか子ども園に行ってもらうとか、業者が決めるか、市が決めるかの話であって、私達は中学校だけで3時から6時と契約させてもらわないといけないと思います。

赤坂委員

例えば少林寺拳法のクラブに行きたいという子どもがいたら、土曜日の3時から体育館で指導するからと言って入りますよね。入った時に小学生もいてる練習になるのか、拳法はチーム戦というのもありますが、基本的には個人的に技を鍛えていく競技ですから、指導に際して小学生がいても関係ないですと言われたら。

山下委員

関係ないでしょうけれども。

赤坂委員

学校教育としては、中学生は中学校がありますから、その辺をどうするのか教えていただきたいのですが。

千代松市長

それは一箇所に集めるという案ですよ。少林寺拳法とかだったら各中学校にないので、そういったことも一回考えてみたらいいのではないですか。

泉佐野市しかできないようなスポーツというのもありますから、それはどこかでスタートできるかと言ったらまずは市とかの教育委員会でやればいいのではないですか教育長。

アイススケートもそうですし、弓道とかもそうですし、泉佐野市でしかできないクラブ活動というのもあるって、どこかに集めてやるということも特色を出すという意味合いでは大きいかもしれないですね。

テニスとかなら各中学校で施設もありますし、それはそれで今まで通り学校でクラブをしたらいいのではないですか。

赤坂委員

既存のクラブとか、アイスアリーナでフィギュアスケートをするとか、カーリングをするという場合は他の年齢の人がいてもいいと思うんです。生涯教育の一貫になりますし、別にそこでスポーツをしたいという子どもはそこに行けるように、学校で従来通り校庭の中でできるスポーツとか、文化クラブとかは人材を派遣する。新しいクラブのジャンルを求めたい子ども達はそういうところにいけるように、ある程度幅をきかせたやり方がいいのではないかと思います。費用の差をなくすような政策も必要だと思います。

千代松市長

クラブ活動というのであれば費用負担がない方がいいのではないかな。

山下委員

子ども達の負担ですか。

千代松市長

家庭の負担ですね。

奥教育長

従来活動に使う道具とかは個人で持ってもらっている部分がありますけれども、学校の先生がやってくれていた部分が、他団体でやってもらうとなると、当然授業料というか月謝がかかってくるので、その辺はできる限り保護者の負担にはならないようにということですよね。

山下委員

今まで無料だったのが急にお金がいるとなると大変ですよ。

千代松市長

クラブ活動の位置付けですからね。外に行ってするスポーツもあれば、ある学校で合同でする場

合もあり、人数が集まれば、それぞれの学校で独自でやっていけるなら、指導者を派遣してやっていただいたらいいですが、人口が少なくなっている競技もあると思うんですよね。

山下委員

子ども達のニーズを聞くアンケートも大切ですし、私達がこれはあれだろうと思っていてもニーズが違うかもしれないので、一回アンケートをとってもいいのではないですか。

千代松市長

小学校でアンケートとってないのですか。中学校でどんなクラブ活動をやりたいかとか。

奥教育長

中学校に行くときにアンケートはとっていますよね。

和田学校教育課学校指導担当参事

入学前に進学先の中学校にこんなクラブがあるので、どこに入りたいですかという希望は聞いております。

山下委員

選択肢の中から選ぶということですね。

和田学校教育課学校指導担当参事

そうです。

山下委員

これだけの選択の中から選んでくださいということですね。無いのは選べないですね。例えばダンス部は選べないですね。

和田学校教育課学校指導担当参事

ないものは聞いてないです。

赤坂委員

あるないに関わらず聞かないといけないですね。

奥教育長

どんなスポーツをしたいか、どんな文化活動をしたいかとか。

千代松市長

聞いた方がいいかもしれないですね。

赤坂委員

もっと幅広い子どもの意見も欲しいですね。

千代松市長

スケボーとかも多いのではないですか。

赤坂委員

スケボーは多いでしょうね。

山下委員

ダンス部とかも。

奥教育長

子どものニーズをつかまないといけないですね。

和田学校教育課学校指導担当参事

それは勿論です。必要かなと思います。

奥教育長

先生の中にもクラブ活動を引き続きやりたいという人はいると思いますので、その人達の把握も含めて、実態をもう少し細かく調べた上で、これで何ができるかを考えていかないといけないですね。

それと、今部活動指導員のことも活用してくれているのですが、今後体大生とかを部活動指導員で来てもらうという可能性はどんな感じですか。

古谷学校教育課指導主事

昨年度までは、大学生は本市としては部活動指導員になれないという規定になっていました。それはまだ学生さんというのもあって、学校としても任せても大丈夫かどうかという不安も結構あったという状況もあって、そういう規定になっていたのですが、今年度は途中でボランティア活動という形で部活動に関わっていただいた方に関しては、部活動指導員に移行できますよということで、規定の方を変えまして、次年度に向けては、先程説明させていただいた認定プログラムを終了していただいた方は、こちらとしても凄く安心して学校に派遣できる条件が整うことがあるので、積極的に学校に入っていってもらえるように、大学側にも紹介してもらえないかという話はさせてはもらっています。

千代松市長

クラブ活動といたらどうしてもスポーツに目がいってしまいがちなんですけど、文化活動はどんな感じですか。足りているのですか。

古谷学校教育課指導主事

文化部も入部部員数の方も先程説明させていただきましたけれど、ニーズとしましては高いです。入部している数も減っていないというのもあるので、一定ニーズは高いまま推移していて、ただ指導者という部分では、教職員ではなかなか賄いきれないという部分もでてきています。例えば華道部であったり、専門的な指導ができる人ではないと、部の活動ができないといったようなこともあります。

千代松市長

茶華道連盟の人は結構いるのではないですか。

奥教育長

茶華道連盟は結構協力的ですよ。市長も私も行かせてもらったら、伝統を引き継ぎたい気持ちが強いので、私も「今後こんなことがあるのでご協力いただかないといけない」と言ったら、「それは喜んで」と言ってましたので。

千代松市長

どんどんお願いしていったらいいのではないですか。

他の文化部は歴史系とかは大丈夫ですか。

古谷学校教育課指導主事

そうですね、今のところ学校内で運営できているかなと思います。

奥教育長

一番大きな文化部でしたら吹奏楽部ですね。

古谷学校教育課指導主事

そうですね。

単純に人数が減ってきているという意味では、単独の学校で活動ができなくなりつつあるというところで、先程市長の方から派遣してというお話もありましたけれども、どこかで集まってやらないと活動できないクラブが文化部ではでてきているところもあります。

千代松市長

何クラブですか。

古谷学校教育課指導主事

吹奏楽部です。国としましては、吹奏楽部に関しては力をいれて支援していこうとしています。

千代松市長

吹奏楽部ならどういう方々になるのですか。

古谷学校教育課指導主事

吹奏楽部は今、部活動指導員として来ていただいている方は、どこかで音楽教室をした経験がある方とか、何かしらの形で学校に関わっていた方に来ていただいていますけれども、なかなかどこにというところは難しいところがあります。

千代松市長

大引課長何か把握していないですか。

大引生涯学習課長

事前の打ち合わせでもお話しさせていただいたのですが、市民オーケストラがいますので、市民オーケストラにも講師の先生が当然おられますので、吹奏楽部は管楽器がメインになってくるかと思いますので、管楽器の部門の先生なら連携をとっていけるかなと把握しております。

赤坂委員

吹奏楽部は指導する人材は確保できるけれども、子どもの数が少なくなって、入部する人が少ないという方が問題になるということですか。

古谷学校教育課指導主事

そうですね。

奥教育長

第三中学校は先生がいらないから子どもが入部してこないのですか。それとも子どもの入部希望がないのですか。

古谷学校教育課指導主事

推移の方を見ても単純に部員数が減っていつています。

奥教育長

指導の先生がいてもですね。

古谷学校教育課指導主事

そうですね。顧問の先生はいらっしゃると思います。

赤坂委員

クラブとしては吹奏楽部が一番人数がほしいクラブですから、1年2年3年で確保できないとい

うことですね。音楽分野のクラブとしては、吹奏楽部だけですからね。

琴、三味線クラブ、ピアノクラブとかもないですから。

音楽をしたい子は吹奏楽部に行きたいけれども、学校で人数が揃わないからクラブがないとか。一つの学校で、近隣の学校と併せてでもいいのですが、クラブができるかという工夫が必要だと思います。第三中学校と新池中学校と併せたから吹奏楽部に来てくださいと言っても、ニーズというか希望が減っていたら行き詰まってきますから、もう少し音楽に対してやりたいなど、吹奏楽を存続しようと思うならそっちの方にも力をいれないといけないと思います。

奥教育長

ありがとうございます。色々な皆様のご意見をいただきまして、民間のその辺のことも調べていただいたり、何よりは子どもの実態を把握いただいて、更に運営していく組織的なところをそれぞれの部で調べていただいた上で、モデル的にやっていこうという1つ案があったと思うのですが、それはどうですか。

古谷学校教育課指導主事

いきなり全市的に進めるのは難しいのかなというところもあって、どこかのタイミングで例えば一つの中学校で、モデル的に外部委託というか外部の指導者が関わる人数を増やすとか、そういった学校が出来ればいいのかと思っています。その学校をどこにするかというのはあるのですが、専門的な指導ができる教職員の割合が低かったりとか、教職員の超過勤務のこともありましたけれども、そういった部分で一番課題が大きいところと言うと、去年の段階で第三中学校が5中学の中では課題が大きかったので、第三中学校をモデルケースとして一旦進めていくということは考えられるのかなという風には思っています。

奥教育長

時間も1時間半も経ってきていますので、モデルとしてやることも含めて、先程から意見を出してくれている民間あるいは協力していただける団体をもう少ししっかり調べて、実態を把握していただいた上で、その辺の運用も含めてどれだけ費用がかかるとかというのはあるのですが、そこも含めて一回計画を立てていただいて、実証実験的に進めていくというところでさせていただけたらと思います。

千代松市長

実証実験でモデルケースでやるということですから、負担は無しの方がいいですね。

北川市長公室長

費用はいくらでもということではないとは思いますが、継続できないとどこまでもっという訳にはいけないので、実験的にされるのであれば、どの段階が一番いいかを考えていただけたらと思います。

千代松市長

どの段階とはどういうことですか。

北川市長公室長

経費をかけるという方ではなくて、持続できるようなプランをお願いしたいと思います。

奥教育長

貴重な意見をいただきましてありがとうございます。

市長も言っていたように、スポーツや文化活動というのはすごく大事な活動だと思いますので、泉佐野市の特色もだしながら組織的に進めていくということで、一回モデル的にやっていくということで、今日はこれぐらいにさせていただいてよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

田倉教育総務課長

それでは、2の議題につきましては以上で終わらせて頂きます。

続きまして、「3. その他」にうつらせていただきます。

まず、「子ども朝食堂について」古谷こども部長より説明をお願いいたします。

古谷こども部長

それでは、貴重なお時間を頂戴いたしまして、「こども朝食堂について」、ご報告させていただきます。

恐れ入りますが、お手元に配付させていただいております資料「朝食提供事業（こども朝食堂）の実証実験の実施について（概要）」をご覧ください。

今回の実証実験につきましては、本市におきましても、朝食を食べずに登校している子ども達が少なくないといった状況を鑑み、子ども達に朝食を食べる習慣をつけてもらい、子ども達の学習や成長を支えることを目的として実施するものであります。

ちなみに、このような取り組みは、大阪市東淀川区の西淡路地域活動協議会が西淡路小学校の家庭科室において「朝ごはんやさん」として取り組まれており、先月のNHKの朝のニュースでも取り上げられた活動であります。

それでは、今回の実証実験の実施内容についてであります。 「実施小学校」については、長坂小学校及び中央小学校の2校で実施いたします。

「実施場所」は、いずれも家庭科室を利用させていただき、「実施日」については、長坂小学校では、明日、2月17日（金）から3月14日（火）までの毎週火曜・金曜の週2日の計8回、中央小学校では、来週、2月21日（火）から3月14日（火）までの毎週火曜・金曜の週2日と2月25日（土）の計8回実施いたします。

「実施方法」については、事前の申込は不要とし、利用したい日に利用することとします。

「提供食数」については、いずれも50食とし、「利用料」は無料といたします。

「周知方法」については、資料として添付しておりますそれぞれの案内チラシを全児童に配付し

ております。

また、今回の実証実験については、本市において、こども食堂を実施しているNPO法人への委託により実施することとしており、長坂小学校については、NPO法人麒麟こども応援団に、中央小学校については、NPO法人サードプレイスに事業委託し、実施するものであります。

最後に、こども朝食堂を利用した児童及び保護者に対して、アンケート調査を実施し、今後の事業展開について研究・検討してまいりたいと考えております。

尚、今回の実証実験につきましては、昨日プレスリリースさせていただいております。

簡単ですが、こども朝食堂についての報告は以上でございます

田倉教育総務課長

ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

千代松市長

これはこども部がやっていますが、学校現場も応援してくれるんでしょうね。

どんな状況ですか。

和田学校教育課学校指導担当参事

チラシで周知しまして、子ども達の様子につきましては各校に確認させていただきたいと考えております。

千代松市長

学校の先生も出てきてくれるんですね。

和田学校教育課学校指導担当参事

そうですね。

田倉教育総務課長

皆様よろしいでしょうか。

続きまして、「夜間中学開設の進捗について」本道教育総務課夜間中学校担当参事より説明をお願いいたします。

本道教育総務課夜間中学担当参事

「夜間中学開設の進捗について」説明させていただきます。

まず今年度に行った内容ですが、準備をしながら視察訪問を中心に行わせていただきまして、遠いところでは徳島県のしらさぎ中学校、ここは県立の夜間中学校です。後は姫路市教育委員会、ここは令和5年度からあかつき中学校という夜間中学校を設置する予定になっております。

その他大阪府下に11校ございますので、こちらも順次訪問させていただいて、実際に行かせて

もらったのは10校で、1校は行くときに台風が来て行けなかったのですが、ほぼ2順目ぐらい入っております。

次に概要説明・PRですけれども、今年度は主に夜間中学校の必要性について教育委員の皆様には先日見ていただいたのですが「こんばんはⅡ」のDVDを見ていただいたりしながら、そこに書いているような色んな団体にご説明をさせていただきました。3月の議員研修会でも夜間中学について取り上げていただくようになっております。

後、大阪府との連携については夜間中学校を設置する自治体で作っている連絡協議会がございまして、そこにも既に入らせていただいております、色々準備させていただいております。

現在行っておりますのは、校舎の実施設計でございまして、9月に補正予算をいただいて、3月24日までにできる予定となっております。それと合わせて12月補正では初度備品の一部を前倒しで購入する予算をいただいておりますので、今備品の購入を順次行っております。

校舎の概要ですが、校舎の真ん中に出ているところ、理科教室の3階建ての分をまるまる一棟夜間中学に改造いたしまして、特徴といたしましては、夜間中学の設置によって昼間の学校にしわ寄せがいかない、むしろ昼間の中学にもメリットがあるような形で考えております、校舎を改造しているところで、卓球部が卓球の練習をしていたのですが、そこを夜間中学が使いますので、横に卓球場を新たに新設いたします。理科室を1室多目的室として改修をしまして、昼間の生徒も使えるような形に考えております。

今後のスケジュールですが、校舎の改修工事の方は令和5年7月から令和6年1月まで予定しております。

PRにつきましては、来年度は本格的に生徒の募集を始めていきますので、チラシ、ポスター等募集要項の作成をして配布していただきます。

イベント的なこととしては、6月24日に「人権を守る市民の会」の学習会で、笑福亭鉄瓶さんという方が、夜間中学の生徒の話を落語にされていますので、こちらに来ていただいて落語を公演していただきます。その資料については4ページに載っている通りで、字が書けなかった人が夜間中学で学んで奥様に初めてラブレターを書いたというお話しでございます。

近隣の市町村等にも訪問させていただきながら入学希望者の面接、体験見学会も行わせていただくようになっておりまして、体験見学会については岸城中学校の方でお願いすることになっております。

初度備品の購入も来年度も一部工事完成後にしか入れられない物については入れていきたいと思っております。

生徒募集については、府下統一期間で令和5年12月1日から令和6年4月28日までとなっております。

後、先程お話ししました徳島県のしらさぎ中学校の方で夜間中学の歌というのを作っておりまして、地元出身のアンジェラ・アキさんが作詞、作曲をされたと聞きました。本市もそういった歌があってもいいなということで、番匠谷紗衣さんをお願いすることになっております。

説明は以上でございます。

田倉教育総務課長

ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

千代松市長

最低何人集まらないと開校できないとかあるのですか。

本道教育総務課夜間中学担当参事

特に何人とかはないです。

初年度は少ないですけども、その人達が次の年に残りますので、どんどん増えていくんです。

最初多すぎた学校は、最終何人になるか心配をしないといけないのが現状です。

例えば令和5年に開設した香川県の三豊市というところに夜間中学ができたのですが、最初9名でスタートされています。想定では最大でも30人ぐらいまでかなと思ってまして、1人もないという状況はないのですが、特に規定というのはないということです。

千代松市長

年度途中でも入学は可能なんですか。

本道教育総務課夜間中学担当参事

期間は短いです但し資料に書いていますように9月に大阪府下で一斉に再募集しています。

千代松市長

年配の方もおられるんでしたら車で通えるようにしたらいいのではないですか。

本道教育総務課夜間中学担当参事

それも検討はしております。ただ、大阪府が今ある夜間中学で車通学を認めているところがないんです。市としましては、生徒さんと一人一人面接をしますので、そういうニーズがあるかどうか確認はしていきたいとは思っております。

山下委員

基本は3年という意味がわからないのですが。

本道教育総務課夜間中学担当参事

中学校ですので、基本は3年なんですけれども、最長が6年となっているのですが、特例で9年までいけるようになっているんです。ですから高齢の方というのはだいたい9年までおられる方が多いです。

山下委員

1 学年を 3 年するという雰囲気ですか。

本道教育総務課夜間中学担当参事

そうですね。

千代松市長

給食費は無償なんですよ。

本道教育総務課夜間中学担当参事

給食費は無償です。

ただ、中身につきましては大阪府下でやっているところはパンとジャムと牛乳だけなんです。副食まで出すと外国の方もおられるので、難しいというところもあります。

田倉教育総務課長

よろしいでしょうか。

それでは、報告の方を終わらせていただきます。

事務局からは特にございませ。

それでは、これをもちまして第 1 回総合教育会議を終了させていただきます。

本日は長時間にわたりありがとうございました。

(午後 3 時 5 2 分閉会)